

# 「木洩れ日」

(其の132)

発行日2023.9.29

社会福祉法人 九十九会 生活介護 「けやき」

299-4403 千葉県長生郡睦沢町上市場693 0475-44-2888

## 西 希仁

この夏は「干ばつ」と言ってもいいほど雨が降らず、そして本当に暑かった。屋外に出ると、まるでUFOに遭遇したかと思うほどの、目の開けられぬ日差し。文字通り「肌が焼ける」。今どきの「男子」の日傘や日焼け止めクリームを50代半ばの私に納得させるに十分な夏でもあった。それはともかく、けやきの畑は水不足。強い日差しは葉っぱも焼いていく。キュウリは元気がなく花もなかなか咲かず、実がなっても小さいまま。里芋や生姜は焼けた葉っぱがそのまま枯れていく。少し前の台風の雨でようやく一息ついたが、もう一雨…というところ。このままでは利根川のダム貯水量も減って渇水警報がでるかも…と言っていた。

そこに現れた台風13号。もっとも当初、9月6日(水)までは「台風13号は足早に太平洋沖を歩き過ぎる」予報。残念。大した雨すら期待できそうにない。

それが7日(木)昼下がりに、急遽、「本州に上陸し、本州のど真ん中を通過して進んでいく」予報に変わった。「朝は強い雨が降るが、あまり風は強くなく、午後には雨は上がる」。それでも、送迎にいらしていた仲間の保護者に私は笑顔で「明日、台風ですけど今のところ通常通りやる予定です!」と伝えていた。

ところが、その日の夜遅く。台風はさらに心変わりをした。「未明から結構な雨量があり、さらに朝は豪雨となる」。台風のスピードも突然、15km/時にスピードダウンで「夕方までまとまった雨が降り続く」とのこと。急に不安になってきた。何年か前の豪雨水害が頭によぎる。さて、どうするか。けやきの営業・休止をいつの時点で判断するか。優柔不断なこの台風、まだまだ進路変更がありそうだ…。頭の中に情報と感情が入り乱れたが、結局は、台風接近の時はいつも私がそうするように「明朝5時半に再度、天気予報や台風情報などを確かめる」「その上で仲間が出来るだけいつも通りに、しかし安全・安心を保てるように、そして自分たち職員の安全も保てるような決断をする」ことを決める。そしてようやく、若干ぎらつく目を閉じ眠りについた。

翌日9月8日(金)早朝。目覚めると台風13号は着実に接近していた。家の近くの通りを見て驚いた。道路が冠水している。

既に朝5時半の段階では、県の福祉施設の休所基準とする「警戒レベル3（高齢者等避難）」が出ていた。私が判断するまでもなく結論は出ていた。今日の「けやき」は休所。それでもけやきの仲間たちや保護者のことを思うともやもやとした感情は消えない。

7時過ぎ。私の背中をドンと押す「警戒レベル4（避難勧告）」が出される中、仲間の家、一軒一軒に電話で連絡をした。「台風接近のため今日は休所します。」

午前11時。台風はさらに接近。外は猛烈な雨。昨晚からずっと降っているが、台風につきものの暴風が珍しく少し控えめであることが救い。それでも形容しがたい豪雨であることには変わらない。けやきの南窓から見える景色は白くかすんでしまっている。東の窓には大量の雨が当たって、まるで「コイン洗車機」に入ったよう。視覚的な刺激だけでも十分な迫力だ。加えて、地鳴りのような雨音。そして、時々、ピカッと光っては間髪入れず「ドドド、ドドーン!」。聴覚刺激がさらに相乗効果を生んで、否が応でも不安になる。いやあ、ひどいことになった。



その後はご存じの通り、各地で河川があふれ、道路が冠水し、土砂崩れまで起きた。今日のけやき休止はかくして結果オーライだったなどと安堵する間もなく、仲間や職員が被災していないか心配になっていた。（今回の台風で被害を受けた方々に心からお悔やみ申し上げます。）

少し前に千葉県文書館というところで「房総災害史」というものを閲覧したことがある。古代から近世、明治や戦後の千葉県における災害が年表になっていた。西暦700年頃から記録として残されているものだけでも、大風や山崩れ、洪水、干ばつ、大雪など様々な災害がずーっと今に至るまで起きていた。それらは近年「異常気象」という言葉で表され、最近では「地球温暖化」、ごく最近では「地球高温化」とも言われる。それはそれで私たちにとって真剣に向き合っ  
て考えなければいけない課題である。一方で、この災害史を見るに、災害はずーっと昔から今  
に至るまで起きていたのだと改めて認識した。そして、災害が繰り返される中で、私たち人間  
はずーっと暮らしてきたのだということも。深刻な事態も、この先を悲観した日々も越えて、  
命をつなぎ暮らし続けてきたのだ。災害以外の、日々のいろいろなトラブル、様々な大小の困難  
にも私たちは群れながら、関わりながら、なんとか暮らしをつないできた。そのことに年表を  
見ながらあらためて感じ入った。

今年の夏の日照り。雨が降る喜び。かと思えば、台風の災害。災害だけではない。コロナも第  
8波と同水準のレベルで蔓延し始めている事だけを取り上げても「今、ここ」には、たたく  
の出来事があり、そのなかにはもちろん多くの困難があり、そして様々な感情がある。その中  
で私たちは暮らしている。

台風13号はその日「午後まで結構な雨が降り続く」はずだったが、不思議なことに昼から雨  
はほとんど降らず。何度も予報を見直したが、予報はいつまでたっても変わらず「今、まさに  
雨が降っています」と言わんばかりの表示がされ続けていた。最近の天気予報は「1時間先の  
雨まで分かる」ようになってきたと思っていたが、「そうでもないんだよ」とでも言うよう  
に、西の空にはかすんだ青空が見えていた。



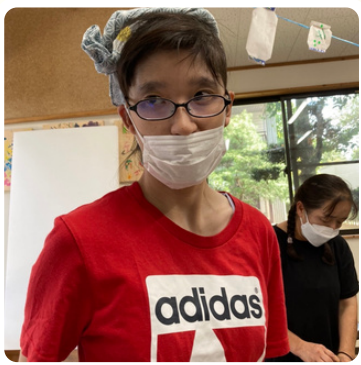
10月5日(木) 摂食指導      10月9日(月) スポーツの日(休業日)  
10月11日・25日・11月1日・8日(水) 外房こどもクリニック健診  
11月3日(金) 文化の日(休業日)    11月7日(火) インフルエンザ予防接種  
11月19日(土)～20日(日) 生き生きフェア (アスモ)  
(けやき製品を出品します)  
11月23日(木) 勤労感謝の日(休業日)  
12月14日(木) 理学療法指導  
12月29日(金)～1月3日(水) 冬季休業日  
その他予定は決まり次第その都度ご連絡致します。



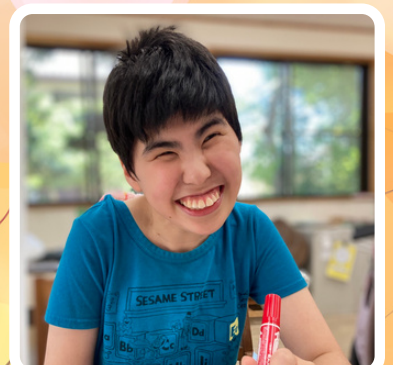
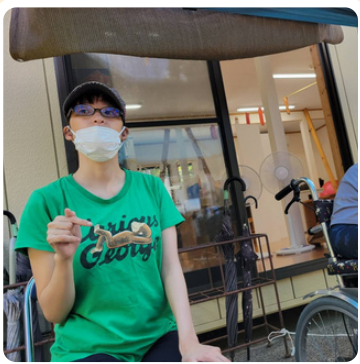


## イベント『縁日』

8月30日に縁日を行いました。今回は『金魚すくい』『たこ焼きビンゴ』『すいか割り』の3ゲームを準備しました。前日まで提灯を作って飾ったり、看板を作ったりとみんなで縁日を作り上げました。当日は自分たちで作ったうちわで金魚をすくったり、手作りのすいかを割ったりと暑い中ではありますが、それぞれ楽しんでいました。 (日暮舞)













## 表現するということ

劔持慶子

けやきに来て、もうすぐ半年が経ちます。  
けやきの仲間たちは、私を少しずつ日々を過ごす仲間として受け入れてくれるようになったと感じています。  
最初のころは様々な反応がありました。

全く気にも留めていないように見えて車から降りない、水分を飲んでくれないなど小さい抵抗を繰り返す方。あなたからは食べないよって食事の時、口を開けてくれない方。この人なんだろうとじっと見つめては離れていく方。興奮し過ぎてしまう方。今はこれをやるんですよと生活の流れに慣れず戸惑う私に、無言で体で指示を出す方。不満を大きい声や音で表す方。

ほぼマイナスな反応でしたが誰一人無反応ということがなかったので、それはそれでへこむことはなく私にとっては楽しいものでした。  
でも、皆さんは違いますよね。  
穏やかに過ごしていた毎日に突然知らない人が来てそれにもないけやきの雰囲気も多少変わり、好きだった職員も見当たらなくなり…。そう簡単に心許さないわよって雰囲気。

今では一緒に楽しい時間を過ごすことでお互いが少しずつ知り合えて来たというか、少し心許してもいいかと思ってくれたのか、小さい抵抗や食事の時の様子も変わってきました。  
そして様々な姿を見せてくれるようにもなりました。

活動の時間に今までとは違う表現方法の提案も受け入れてくれたり、思いもしなかった表現をしたり。まだまだ隠された力があることを、ひしひしと感じます。  
その隠された力をその人に合ったやり方で少しずつ引き出せるようにまだまだ濃いおつきあいをしたいと思います。そして何かその人の気持ちよくできた表現で作品ができれば…と考えています。

私は距離が近くなりすぎたり、しつこかったりするので嫌がられることがありますが、気を付けながらお付き合いしていきますのでどうぞよろしくお願いいたします。

## 編集後記

猛暑が続く中、世界規模でも「地球沸騰化」などという言葉が使われるようになりました。日々の活動においても散歩活動はほとんどできなくなり、室内活動中心になりました。色々な意味でストレスが増え、体調管理も難しい状況となっています。そんな中でも短い時間を使って、畑での収穫活動、夏祭りの創作活動やイベントを通じて、利用者さんが少しでも楽しく、喜びを感じてくれれば幸いです。（小林則文）